

第1学年2組 算数科 学習指導案

令和3年11月18日(木) 第4時限 1の2教室

1 単元名 「ひきざん(2)」(11時間完了)

2 単元の目標

- (1) 簡単な2位数についての減法を理解し、それが用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。(知識及び技能)
- (2) 数量の関係に着目し、減加法や減減法での計算の仕方を考え、具体物や図などを用いて表現し伝え合ったり、日常生活に生かしたりすることができる。(思考力、判断力、表現力等)

3 本単元の学習について

本学級の児童は、既習単元である「ひきざん(1)」において、残りや違いを求める場面を数図ブロックで操作し、ひき算の式に表して答えを求めることができるようになった。ひき算についての知識を身に付けたり、理解を深めたりしている一方で、ひき算の意味や計算の仕方を友達に言葉で伝えることが苦手な児童が多くいる。そのため、数図ブロックなどの具体物を使って、自分の考えを言葉にして相手に伝える方法を習得する必要がある。そうすることで、自分と友達の考えの同じところや違うところに気付き、いろいろな計算方法があることを知ることができる。この単元では、基本的に、減加法での計算の仕方を中心に指導していくが、数えひきや減減法での計算の仕方も認め、子供たち一人一人が自分に合った計算方法を見出すことができるようにしたい。

本単元の学習の流れは、次のようになる。

【第1時】「 $13-9$ 」などの引く数が6以上(大きい数)の繰り下がりのあるひき算について、数図ブロックを用いて、計算方法を見出す。

【第2時】前時と同じように、「 $12-7$ 」などの繰り下がりのあるひき算の仕方をもう一度、言葉で説明し合う。また、計算の仕方を定着する。

【第3時】引かれる数を変えるなどして、繰り下がりのあるひき算の練習をし、減加法のよさを味わう。「どちらがいくつ多いか」の問題を解く。

【第4時(本時)】「 $13-4$ 」などの引く数が5以下(小さい数)の繰り下がりのあるひき算の方法を言葉にし、計算方法を見出す。児童の実態に合わせて、減減法での計算の仕方を知り、そのよさを味わう。

【第5～7時】ひき算の計算カードを使って、繰り下がりのあるひき算の練習をする。

【第8時】ひき算の計算カードの答えが同じ数になるものを順序よく並べ、並び方の決まりを考え、理解する。

【第9時】数字カードを用いた「かずあて げえむ」を通して、逆算の考えを使い、たし算とひき算の習熟を図る。

【第10時】たし算やひき算の紙芝居作りを通して、計算の問題作りに興味・関心を持ち、日常の場面で生かす。

【第11時】繰り下がりのあるひき算の練習問題を解き、学習内容を理解したことを確認する。

4 本時の指導(4/11時)

(1) 本時の目標

引く数が5以下の繰り下がりのあるひき算の計算の仕方を考え、それを図や式、数図ブロック等を使いながら、自分の言葉で正しく表現することができる。(思考力、判断力、表現力等)

(2) 本時の展開

(学習課題) ちいさいかずをひくひきざんができるようになろう

0(分)	7	22	30	40	45
導入	チーム学習①(15分)		全体確認	チーム学習②(10分)	振り返り
日常生活場面での出来事を示し、分かっている情報を見つける。本時の学習課題を確認する。どんな方法で「 $13-4$ 」を計算するか見通しをもつ。	13-4の計算の仕方を各自で考え、話し合う。(①減加法…13を10と3に分ける→ $10-4=6$ → $6+3=9$ 、②減減法…4を3と1に分ける→ $3-3=0$ → $10-1=9$ 、③数えひき…12、11、10、9、④図に描くなど)必要であれば、数図ブロックを操作しながら、4人全員がそれぞれの考えを発表し、自分に合った方法を見つける。早くできた場合は、もう1問考える。		減加法での計算の仕方を確認する。減減法での計算の仕方を見つけた子がいれば、紹介する。他にも、いろいろな計算方法があることを知り、自分に合った方法を見つける。	小さい数を引く繰り下がりのあるひき算の練習問題を解く。早めに終えたら、ミニ先生となり、グループの友達の丸付けをし、解き方を伝える。	学習課題が達成できたか自分の姿を学びの天気で判断する。思いを簡単な文章で表現する。

(3) チーム学習の展開

【チーム学習①】

(発問)「どうやったら  $13-4$  が解けるのだろう」

チーム学習の状況を把握するために

- ・数図ブロックを使う場合、机の上で操作する。式や図を使う場合、ノートに記す。

想定されるチームの様子と教師の出

限られた子だけで話し合いが進んでいる。  
・話し合いを一度止め、そこまでに考えた子はだれか、他の考えはどうなっているか、これからどのような順で考えを話していくかを確認する。

減加法での計算方法が出ないまま、話し合いを進めている。  
・「前の時間はどんな計算方法だったか」と問い、減加法での計算の仕方を思い出させ、まねすると良いことを伝える。

減加法に限って話し合いを進めて、満足している。  
・数図ブロックを使って、4を3と1に分けることに注目させ、「これが使えないかな」と問う。

減減法の考えを話し合っているが、その意味を理解できていない。  
・「数図ブロックはどうやって動かすの」と問い、数図ブロックを使って、自分の言葉で説明できるようにするよう伝える。

減加法や減減法、数えひきなど、自分たちの考えを互いに伝え合い、色々な計算方法を知ることができている。  
・数図ブロックや図を使い、自分の言葉で説明できていることを称賛する。  
・1つの計算方法だけで話し合っているチームに個を派遣し、他の計算の仕方を知らせてくるように言う。

<p>13を10と3にわけ (数図ブロック)</p> <p><math>10-4=6</math></p> <p><math>6+3=9</math></p>	<p>4を3と1にわけ (数図ブロック)</p> <p><math>13-3=10</math></p> <p><math>10-1=9</math></p>
<p>じゅんばんに4つひく</p> <p><math>13 \rightarrow 12 \rightarrow 11 \rightarrow 10 \rightarrow 9</math></p> <p>① ② ③ ④</p> <p><math>13-4=9</math></p>	<p>えでかいて、けしていく</p> <p><math>13-4=9</math></p>

【チーム学習②】

(発問)「いろいろな問題を正しく計算できるかな」

チーム学習の状況を把握するために

- ・自分で決めた計算方法でやった様子をノートに記す。

想定されるチームの様子と教師の出

どの計算方法でやればよいか、見通しがもてない子がいる。  
・同じチームで助け合うように言う。早く終えた児童に、ミニ先生として、困っている友達を助けるよう伝える。  
・前の問題をどの方法で考えたか確かめ、「同じ方法でやってみよう」と言う。

ミニ先生になっているが、答えだけ見ている、考え方を自分の言葉で伝えることができていない。  
・「どんな方法で計算したの」と問い、考え方が大切であることを伝える。

全員がそれぞれの問題に合った計算方法を選び、練習問題を正しく解くことができている。  
・自分が選んだ方法で、正しく解くことができている児童を称賛する。  
・練習問題を早く終えた児童の解答を確認し、合っていれば、ミニ先生として、自分のチームのメンバーの解答を確認したり、解き方を伝え合ったりするよう言う。

<p>11 ① <math>13-5=8</math></p> <p>13を10と3にわけ (数図ブロック)</p> <p><math>10-5=5</math></p> <p><math>5+3=8</math></p>	<p>② <math>14-5=9</math></p> <p>14を10と4にわけ (数図ブロック)</p> <p><math>10-5=5</math></p> <p><math>5+4=9</math></p>
<p>5を3と2にわけ (数図ブロック)</p> <p><math>13-3=10</math></p> <p><math>10-2=8</math></p>	<p>5を4と1にわけ (数図ブロック)</p> <p><math>14-4=10</math></p> <p><math>10-1=9</math></p>

(4) 評価

自分が考えた計算方法を数図ブロックや図、言葉で伝え、さらに、問題に合った計算方法を選びながら計算することができたか。

(チーム学習①②の児童の発言や様子、チーム学習②の児童のノートの記述、振り返りの記述から)